

終活？

『県陵倶楽部20』の同窓仲間、堀内悦司君より「卒業50年記念誌発刊」に向けての「寄稿依頼」や総会への出席の「お誘い電話」を頂いた日（3月25日）、小生「春の香り」を求めて例年の何時もの場所へフキノトウを採りに…。ところが収穫少なく、場所移動し遠回りをしながら軽トラで山を下りて来る途中、何時ものゴルフ仲間のA氏に行き会った。A氏は、自分の畑に大きな穴を掘り何かを燃やしていた。小生「何燃やしているだい？」と聞いたところ、「俺ァーもう終活を始めただよ～」と言うではないか…。「何？おい、えれえー早かねーかい？」と、問いかけながら車から降り見てみると、どうやら彼の自宅にある全てのアルバムや記念写真、ネガの類まで持ち運んで来た様だ。その量は山のようにあり、写真を見ては小生に解説を加えながらせっせと焼却処分をしていた。A氏の事情は解らなくも無い…。要は後継ぎが自分の家に居ない事（息子は東京に家を建ててしまった）、また帰って来る見込みも無い。いずれ自分達が死んだ時、子供に後始末で迷惑を掛けたくないし出来るだけ身軽にしておきたい、つまりは生前整理というのが経緯の様だ。自分の親と一緒に写ったセピア色に変色した写真。自分達の幼き頃や小中高の入学、修学旅行、そして卒業記念の集合写真。奥方と出会った若き日の貴重な、そして大切な結婚式の写真。子供達の幼き頃の思い出や記念日。孫達の節目のイベント写真等々があり、聞いてみればA氏の奥方の意向で、A氏も納得しているとの事。「こんな大切な写真までもかい？」とおもわず言ってしまった。確かにこんにち写真はデジタルでプリントする事は殆ど無い。アルバムの代わりはクラウドか、USBやSDカードだ。DPE写真や、ご祝儀の領収書代わりに貰う記念写真は確かにお荷物だ。A氏の気持ちは分らない訳ではない。「でもなァ…」が、小生の率直な感想であった。その日の午後、堀内君から冒頭の電話があり、2010年発刊された会員録や「県陵の歩み」等を我が家のお荷物の中から捜し出し、「アァ！彼か！」「そーだじい〜！」のおじさんだ！ぴったり名前と顔が一致した\((◎o◎)/。色がにじみ始めた写真も大事だなあー！と思った瞬間だった。断捨離、終活、生前整理、老前整理、色々似た言葉が有り、ネットを見れば成る程と肯ける解説、論評もたくさん有る。それにしても今回の写真一掃焼却事件？余計なお世話だが優先順位で考えれば、写真は決して不用品やお荷物では無いと考えるが…。快適なシルバーライフを過ごす為、或いは家族への「思い遣り」からならもっと賢い方法が有るのではと思うのです。「小生にはまだ先の話」と考える一方で、そう云えば我が家にも粗大ごみの山が幾つも有るな〜と悩ましい問題になってしまった。そりゃそーだ！「高校卒業して半世紀も経ってしまったじい〜！」と自分に納得、先送りを何時もの様にしている…。

皆さんはどう考えますか？

東御市

C組 井出 博